

4. 学習プログラムの開発

- I 生涯学習セミナー
- II 大学連携オープンカレッジ
- III 視察研修
- IV 成果報告

I. 生涯学習セミナー

全ての学び続けたい人たちのための
生涯学習セミナー2019

**第1回
防災教室**

～みんなで一緒に生きのびよう！～



**第2回
カローリング大会**

～名古屋発祥のスポーツで楽しもう～

**第3回
河合純一さんに聞く**

～夢を追いかけて～



**第4回
国宝犬山城・歴史散策**

～国宝が一つの町にふたつも!!
欲張り犬山城下町散策～

協 力: 犬山市役所

<はじめに>

本学習プログラムは、学校卒業後の障害青年たちの主体的な学習意欲を引き出すことをねらいに平成 30 年度文部科学省委託事業「障害者の多様な学習活動を総合的に支援するための実践研究」の学習プログラムの一つである「公開講座」(講座長:辻浩(名古屋大学教授))と委託団体であるNPO法人学習障害児・者の教育と自立の保障をすすめる会(以下法人)が平成 29 年度より独自に主催してきている「生涯学習セミナー」(以下セミナー)をリンクする形で行われた。

目指したのは「当事者による 当事者のための 生涯学習セミナー」である。

セミナーを実施するに当たり①生涯学び続けること②本人の思いを軸に③育ち合える場として以上の三つの視点を大切にしてきた。テーマは、昨年度のセミナーに引き続き「スポーツ・学び・文化」である。

2019 年度は、文部科学省委託事業として 4 回開催した。延べ参加人数は、317 名でその内当事者の参加は 227 名であった。

4 回の内 1 回は、犬山市障害福祉課に勤務する連携協議会委員の協力を得て法人の所在地である名古屋市ではなく犬山市で開催する「出張セミナー」を計画した。また 1 回は、2019 年度(令和元年度)文部科学省「共に学び、生きる共生社会コンファレンス」事業である『障害者の学びの場フォーラム in 東海・北陸』の本人分科会の一つとして位置づけ、開催することができた。

本年度のセミナーは、基本 4 回を通して参加してもらうように呼びかけ、各回のグループワークを通して参加者の交流を図った。また参加者の立場は当事者、教職員、学生・院生、保護者等と様々であるが、セミナーの中では同じ土俵で学び合う事を大切にした。

本セミナーの運営にあたっては当事者をメンバーに含む実行委員会を組織した。また前年度の公開講座から引き続き名古屋大学の辻研究室にもご協力を頂いた。

<生涯学習セミナー2019 実行委員会の構成>

実行委員会の構成を以下に記す。

見晴台学園高等部専攻科生 2 名 + 教員 1 名

見晴台学園大学校学生 5 名 + 教員 1 名

るつく〜あるて社員 2 名 + 職員 1 名

(自立支援センターるつく 就労移行支援事業所利用者・養護学校高等部卒業生)

すすめる会理事 5 名

(本事業コーディネーター・大学校職員・大学校教員・学園教員・るつく職員)

名古屋大学 大学院生 2 名 + 教授 1 名(社会教育・生涯学習研究室)

20 名で構成

<実行委員会開催日と主な議題>

本セミナーを実施するに当たり下記の実行委員会を開催した。

会場:見晴台学園 15:30～17:00

- 第1回 2019年6月17日 自己紹介、今年度のセミナーについて
- 第2回 2019年7月22日 セミナーの開催時期について
- 第3回 2019年8月9日 第1回セミナーについて
- 第4回 2019年9月18日 第1回セミナーのまとめ、第3回セミナーに向けて
- 第5回 2019年11月13日 第2回セミナーについて、第3回セミナーに向けて
- 第6回 2019年12月13日 第2、3回セミナーまとめ、第4回セミナーに向けて
- 第7回 2020年1月20日 第4回セミナーについて
- 第8回 2020年2月17日 第4回セミナーのまとめ、各役割分担について振り返る

<実行委員会内の役割分担と青年たちが担った内容>

また実行委員会では下記の役割分担を行い、当事者のメンバーには、下記の役割を担っていた。ここでは企画の段階から当事者が主体的に学びの場を一緒に作っていくことを目指した。

実行委員長…実行委員会の司会、当日セミナーでの挨拶、フォーラムまとめF分科会報告

副実行委員長

事務・総務係

広報・宣伝係…チラシの作成、アンケート用紙の作成・集約、当日の記録(カメラ)

会場係…会場作り、会場誘導係、名簿や名札の作成準備

運営係…新聞紙での防災グッズ作りのデモンストレーション、カラーリング大会の景品準備、ワークシートの作成(下見)、河合純一さんへの事前アンケートの作成、当日の受付



実行委員会の様子



新聞紙での防災グッズ作りのデモンストレーション

【資料:生涯学習セミナーチラシ】

令和元年文部科学省委託事業「障害者の多様な学習活動を支援する実践研究」

全ての学び続けたい人たちのための 生涯学習セミナー2019

参加費 無料
～みんなで一緒に
生きたびよう！～

防災教室
講師:近藤ひろ子さん(防災教育アドバイザー)
日時:2019年8月28日(水) 13:30～16:30
会場:名古屋港湾会館2階第1会議室

カラオケ大会
～名古屋様のスポーツで楽しもう～
日時:2019年11月20日(水) 9:30～15:00
会場:霧橋スポーツセンター

**パラリンピック選手に聞く
パラリンピックの魅力**
講師:河合純一さん(日本パラリンピアンズ協会委員)
日時:2019年12月1日(日) 13:30～16:30
会場:愛知みずほ短期大学

国宝犬山城・歴史散策
～国宝が一つの町にふたつも!
教護り犬山城下町散策～
日時:2020年1月開催予定

主催:財団法人学習障害児・者の教育と自立の保障をすすめる会
お問い合わせ
NPO 法人見晴台学園大学校
〒454-0871 名古屋市中川区朝森町2708番地飯倉ビル2階
Tel 052-355-6752 Fax 052-355-6753
E-mail daigaku@miharashidai.com

令和元年文部科学省委託事業「障害者に多様な学習活動を支援する実践研究」

生涯学習セミナー2019 国宝犬山城 歴史散策

参加費 無料
～国宝犬山城と城下町食べ歩き!
教護り犬山城下町散策～
2020年
2月10日(月) 10:45～15:00

全ての学び続けたい人たちのための
生涯学習セミナー2019を犬山で開催

グループに分かれて、のんびり城下町散策。街のあちこちらに町名由来の看板があり、それを見つつ、食べ歩きしながらレトロな町なみ散策。

現存する日本最古の木造天守がある国宝犬山城。天守最上階からの景色は絶景。お天気が良い日には美しい木曾川を眺めながら、江戸時代にタイムスリップ。

※参加希望者は、事前にご連絡をお願いします。(2/5 締切)

《スケジュール》
10:45:犬山市役所会議室受付開始
11:00:全体会
11:45:昼休憩
12:15:散策
14:30:犬山市役所会議室集合
15:00:解散
*犬山城は障害者手帳提示で入場料無料
*食べ歩きの実用については各自ご用意ください

主催:NPO法人学習障害児・者の教育と自立の保障をすすめる会
お申込み・お問合せ:NPO法人見晴台学園大学校
〒454-0871 名古屋市中川区朝森町2708番地飯倉ビル2階
TEL:052-355-6752 FAX:052-355-6753
EMAIL:daigaku@miharashidai.com



＜生涯学習セミナーの実施内容と参加者の声＞

第1回「防災」～みんなで一緒に生きのびよう！～

日時:2019年8月28日(水)13:00～16:00

会場:名古屋港湾会館 2階 第1会議室

講師:近藤 ひろ子さん (名古屋市港防災センター 防災教育アドバイザー)

(独立行政法人国際協力機構 防災教育担当 専門家)

参加人数:79名(10グループ)

(当事者58名、教職員17名、保護者3名、学生・院生1名)

プログラム:実行委員長挨拶・副実行委員長挨拶

講義「防災～みんなで一緒に生きのびよう!～」(60分)

グループワーク(35分)

①ワークショップ「新聞紙でスリッパを作ろう!」

②話し合い 1)講義を聞いて感想を出し合おう

2)講義を聞いて「もっと知りたいこと」を出し合おう

各グループからの発表(30分)

まとめ

アンケート記入

配布資料:講義資料(10P)、ワークショップ資料、アンケート

＜参加者の声＞ 感想&アンケート より (42回答中)

◆防災セミナー～みんなで生き延びよう～を聞いてどう思いましたか？(複数回答可)

おもしろかった 30 防災についてもっと知りたくなった 32

つまらなかった 0 よくわからなかった 0

その他 3

◆新聞紙を使つてのスリッパ作りはどうでしたか？(複数回答可)

おもしろかった 29 説明がわかりやすかった 9 むずかしかった 9

よくわからなかった 3 つまらなかった 0 他の防災グッズも作ってみたい 13

その他 4

◆セミナーを聞いて思ったことがあれば自由に書いてください。(一部抜粋)

「気にはしていたけど防災が自分にとって、だいじだと思った。」

「防災は『明るく楽しく元氣よく』がよかった。」

「なにもよいしてないから、はやくよいをして、そなえたいとおもった。」

「スリッパを作るのが大変だったけど、来てよかった。」

「きょうからすこしずつぼうさいのことかんがえます。」

生涯の学びとしての、障害青年の「学校から社会への移行期」における継続的な学習の役割と課題



【資料:法人会報『木もれ陽』2019年10月20日発行第258号】

木もれ陽 258号 2019年10月20日発行 (1)

発行
特定非営利活動法人
学園博覧会・書の教育と自立の保障をすすめる会
事務局：〒467-0087 名古屋市中区東田町32-1
自立支援センターるっく内
TEL&FAX 052(811)3776 発行人：宮原とさ子
発行日：2019年10月20日
KOMOREBI 258号

ホームページURL
見晴台学園：<http://www.miharashidai.com/>
見晴台学園大学：<http://daigaku.miharashidai.com/>
自立支援センターるっく：<http://www.wa.commufa.jp/look/>

全ての学び続けたい人たちのための
生涯学習セミナー2019 **防災教室**
～みんなで一緒に生きのびよう！～
8月28日(水) 名古屋港湾会館2階第1会議室

当日、会場のロビーでは、和気あいあいのムードの中、「みんなでこの会を盛り上げていこう！」という空気が満ち溢れていました。(まず、そのことで感動！)「防災～みんなで一緒に生きのびよう～」というテーマで、以下のような話をしました。

- ◎「防災」は、「命を守ること」+「みんなと一緒に生きのびていくこと」
- ◎いざというときに大切なことは、「命(自分の命も他の人の命も大切に)・支え合い(支え合い、助け合って生きていく)・自ら動く(いいことだと思ったら、まず自分からやってみよう)」…そのためには、日ごろからの周りの人たちとのつながりあいこそが「力」
- ◎「地震・津波」「大雨」「台風」「雷」からの身の守り方
- ◎避難生活、そなえるための合言葉…「練習(「みんなで支え合い」の心の練習も含めて)」と「準備」
- ◎「防災」は続かなければ意味がない。そのためには、「想定は厳しく、防災の取り組みは『明るく、楽しく、元氣よく!』」…つながりあえた喜びとともに

今回の話の中で、私がいちばん伝えだかったのは、「いざという時に、みんなと一緒に生きのびていく」ということです。(「みんなで一緒に」がポイントです。)そのためのキーワードが「つながりあい」です。最後の最後、頼りになるのは、人の力、人との「つながりあい」です。いざという時の中で、「つながりあい」の輪を一つずつ増やし、広げていきましょう。

みんなの笑顔と命のために、一緒にがんばっていきましょう!

名古屋港防災センター 防災教育アドバイザー
JICA(独立行政法人 国際協力機構) 防災教育担当 専門家
近藤ひろ子





第2回「カローリング大会」

日時:2019年11月20日(水)10:00~15:00

会場:露橋スポーツセンター

参加人数:93名(16チーム)

(当事者60名、教職員20名、保護者3名、学生・院生6名、その他4名)

プログラム:開会式(30分)

実行委員長挨拶

優勝トロフィー返還

カローリング協会よりご挨拶

カローリング協会によるデモンストレーション

試合進行の説明

準備体操(ラジオ体操)

練習タイム(30分)

試合 ※第1テーブル~第6テーブル (1テーブル20分)

閉会式(20分)

表彰式(優勝・準優勝・3位・ラッキー賞)

※ラッキー賞は4~16位の中から抽選で決定した。

カローリング協会からの総評

副実行委員長挨拶

記念撮影

片付け

※アンケートについては後日行った。

<参加者の声> 感想&アンケート より(38回答中)

◆カローリング大会に参加してみて

楽しかった 29 ふつうだった 7 おもしろくなかった 2

◆その理由を教えてください。(一部抜粋)

「何回も練習しましたが、優勝が出来なくてくやしかったです。15位でとても嬉しかったです。初めてのカローリング大会だったので少し難しかったです。」

(10代女性・就労移行支援事業所利用者・養護学校高等部卒業生)

「たくさんをなげました。よかったです。カローリングまたやりたいです。」

(10代女性・就労移行支援事業所利用者・養護学校高等部卒業生)

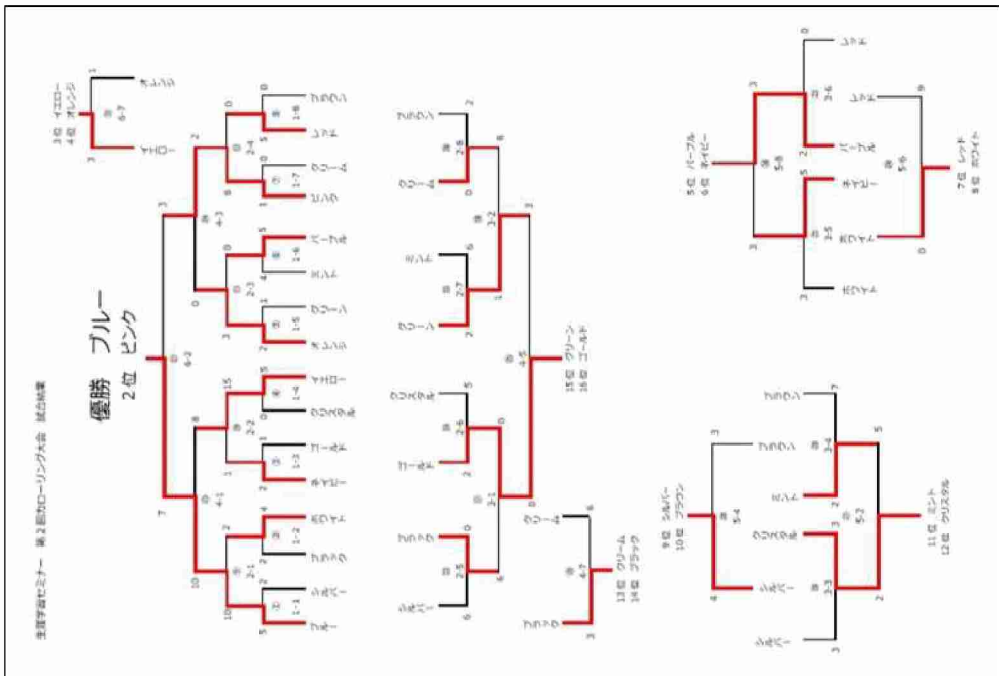
「みんなといっしょに楽しかったです。みんなとまたやりたいです。カローリングがいいです。」(20代男性・自立(生活)訓練事業所利用者・養護学校高等部卒業生)

◆またカローリングをしてみたいですか

またやりたい 19 どちらでもよい 10 もうやりたくない 5



【資料:第2回カーリング大会トーナメント結果】



第3回「河合純一さんに聞く ～夢追いかけて～」

日時:2019年12月1日(水)13:30～15:50

会場:愛知みずほ短期大学 別館1階 講義室

講師:河合 純一さん

(文部科学省スペシャルサポート大使/パラリンピック競泳 金メダリスト)

(日本パラリンピアンズ協会 会長)

(東京大学教育学部研究科付属バリアフリー教育開発研究センター協力研究員)

(アジアパラリンピック委員会アスリート委員会 副委員長)

参加人数:64名(11グループ)

(当事者51名、教職員11名、保護者2名)

プログラム:実行委員長挨拶

講演「河合純一さんに聞く～夢追いかけて～」(30分)

質疑・応答(30分)

※参加予定者には「事前アンケート」を行い、質問内容を準備しておいた。

合わせて当日参加者した当事者の方からの質疑の時間も保障した。

グループワーク 講演や質疑・応答を聞き学んだこと感想を出し合う(30分)

グループからの報告 各グループの代表から意見を報告してもらおう(30分)

まとめ 最後に河合さんより感想をいただく(5分)

アンケート記入

<参加者の声> 「事前アンケート」より 当日会場で質問されたものを抜粋

◆河合さんに聞いてみたい事を何でも書いて下さい。

「なんで水泳を始めようと思ったのか。なんで先生になろうと思ったか。

学校の先生かスポーツの水泳とどちらが好きですか。」(20代・男性)

「先生になった一番困った事はなんですか？

真暗な世界で泳ぐのは、怖くないですか。」(30代・女性)

「私は近視、乱視でかなり見えません。目が見えないと不自由ではありませんか。まわりの人は目が見えないとまわりは見ぬふりをします。どうしたらいいですか。まわりの人は見ぬふりをしますか？私は見ぬふりをされます。」(30代・女性)

「目が見えなくなってしまう時を含めて心から苦しい時に自分が立ち直れたのはどんな理由があったと思いますか。不自由な人、傷ついた人でも夢をめざせるようにするには

社会に対してどのような働きかけてゆけばいいのでしょうか。河合さんがこれからの

社会に望む事はなんでしょうか。」(30代・男性)

「好きな野球チームは？好きなスポーツ選手は？」(50代・男性)

「スーパーなどで買い物する時、食材はどうやって選んでいますか。

洋服はどうしていますか。

目が見えないから誰か生活をサポートしてくれる人とかいるんですか。」(20代・男性)

<参加者の声> 感想&アンケート より(54回答中)

- ◆「河合純一さんに聞く～夢を追いかけて」を聞いてどう思いましたか？（複数回答可）
 おもしろかった 35 もっと話しが聞きたくなった 16 よくわからなかった 3
 その他 0

- ◆河合純一さんのお話を聞いて、思ったことがあれば自由に書いてください。（一部抜粋）

「このこうえんかいで僕はゆめやもくひょうにむかってがんばる。かんがえかたいきかたを
 することができました。」(20代)

「目が見えなくてもがんばれば夢がかなえられることがすごいと思いました。」(10代)

「純一さんのお話を聞いて、自分は仲間を作ることは大事だと思いました。自分もやりたく
 ないをじしんをもってチャレンジをしていきたいと思います。」(20代)

「仲間が大事にします。と思ったです。」(10代)

「目が見えなくても、健常者と同じような生活を送れているのが、すごいなと思いました。

スーパーでの買い物は、店員さんに選んでもらって買ってるんだという事が、分かりまし
 た。私は、地下鉄の駅で河合さんと同じ視覚障害の人を見かけるけど、すぐに手を差しの
 べない(助ける事ができない)ので、これからは、視覚障害の人を見かけたら、すぐに手を差しのと
 べ、助けようと思いました。」(20代)



第4回「国宝 犬山城 歴史散策」出張セミナー

日時:2020年2月10日(月)10:45~15:00

会場:犬山市役所 2階 205 会議室、犬山城下町、国宝 犬山城

講師:野村 好哉さん(犬山市役所教育部歴史まちづくり課)

参加人数:81名(10グループ)

(当事者58名、教職員19名、保護者2名、学生・院生1名、その他1名)

プログラム:全体会 実行委員長挨拶

犬山市福祉課(奥谷 雪江さん)よりご挨拶

本日の流れの確認

講義「犬山についてのお話」講師:野村 好哉さん(30分)

昼休憩 グループごとに交流をしながら(30分)

犬山城下町(食べ歩き)・犬山城の歴史散策(1時間45分)

※ワークシート(小冊子)を活用しながらグループごとに散策する

全体会 ワークシートの答え合わせ(30分)

アンケート記入

配布資料:「国宝犬山城」・「犬山城下町まち歩き指南書」・「観光犬山」・「犬山城下町マップ」

「城とまちミュージアム」 ※犬山市福祉課にご協力をいただいた

「生涯学習セミナー2019 国宝犬山城歴史散策 ワークシート(小冊子)」

アンケート

<参加者の声> 感想&アンケート より(63回答中)

◆全体会に参加して、どう思いましたか?(複数回答可)

犬山についてよくわかった 36 犬山についてもっと知りたくなった 18

話の内容が少し難しかった 11 その他 3

◆グループで行う犬山城と城下町の歴史散策はいかがでしたか?

グループの人とはなしをしながら散策することができた 36

街歩きをして犬山のことを知ることができた 20

犬山についてもっと知りたくなった 9 その他 11

◆犬山城と城下町歴史散策の感想を書いてください。(一部抜粋)

「めちゃくちゃたのしかった。」(30代女性・一般企業で就労・グループホームを利用)

「犬山じょうは、はじめて行った。とてもよかった。〇〇さん(※参加した大学院生の名前)

と今日のはなしができたことがうれしかった。ありがとう。」

(60代男性・生活介護事業所利用者)

「みんなといっしょに、犬山城に行けてたのしかった。」

(50代女性・就労継続B型事業所利用者)



<実行委員の立場から>

2020年2月15日に開催された「学校卒業後の学びを求めて～2019年度成果報告会～」(愛知県立大学サテライトキャンパス)にて本セミナーについての報告を行った。

その際に実行委員として一緒にセミナーを企画・運営してきた当事者のメンバー数名と報告の準備を行った。ここに実行委員会では運営係を担ってくれた二人(養護学校の高等部を卒業後、現在、就労移行支援事業所を利用し一般就労を目指している)と実行委員長の大役を果たしてくれた見晴台学園専攻科生の発言を掲載する。

<私たちの思い①>

(19歳女性・就労移行支援事業所利用者)

セミナーに参加してみてどうでしたか？

カローリングとか犬山とか楽しかった。なかまたちがいると楽しかった。

自分も勉強になったと思いました。

実行委員をやってみてどうでしたか？

準備することがたいへんでした。雨の中の下見がたいへんだった。

みんなでしおりを作っていたいへんだった。でも、みんなが楽しんでくれてうれしかった。

とてもよかった。

今までの学校の勉強と比べてみてどうでしたか？

小学校のときの勉強は好きだった。中学校のときは、もう忘れてしまった。

高校のときは、仕事の練習をやっていた。だからあまり好きな勉強はなかった。

セミナーは楽しかったし、学んでよかったと思った。

<私たちの思い②>

(19歳女性・就労移行支援事業所利用者)

セミナーに参加してみてどうでしたか？

自分の希望した防災を学べて一番良かったです。地震の歴史が沢山学べました。これからも沢山のニュース情報で災害を沢山学びたいです。

実行委員をやってみてどうでしたか？

受付係をがんばりました。この経験が良かったです。

みんなで話し合いしたら、ジブリの歴史、川柳など沢山の意見がありました。

その中で自分の意見の地震、防災についてセミナーができてうれしかったです。

またやってみたいです。次はジブリの歴史を学びたいです。

今までの学校の勉強と比べてみてどうでしたか？

小学校とか中学校とか養護学校とかでは、沢山の授業をしていました。

私は勉強が好きでした。セミナーもがんばりました。楽しかったです。

私は、もっと学びたいです。

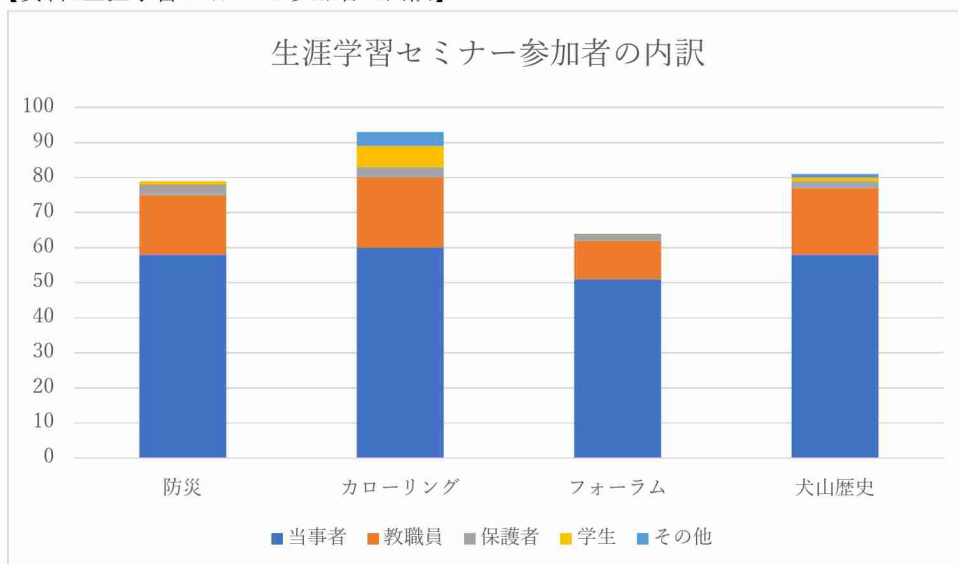
<私たちの思い③>

(19歳女性・見晴台学園専攻科生)

生涯学習セミナーの実行委員長をやってみた感想

第1回目の生涯学習セミナーで担当決めをした時に自ら実行委員長に立候補しました。2回目のセミナーから司会をやることになりました。みんなに意見を聞いたり、授業後残って生涯学習セミナーの実行委員会をしたりしました。全部で4回セミナーがありました。1回目は、防災について学びました。地震や津波のことを学びました。2回目のセミナーは、カローリング大会をしました。実行委員長のあいさつをしたり、1位からラッキー賞までの人たちにメダルをかけたりすることをやりました。3回目のセミナーは、元パラリンピック選手の河合純一さんの話を聞きました。グループに分かれて話を聞きました。みんなと一緒にパラリンピックの話が聞けてよかったです。4回目は、犬山城、城下町散策でした。この日もグループに分かれて散策しました。犬山に関するレクチャーを聞いたあと、昼ご飯を食べて、グループごとに散策へ出かけました。その日は、雪が降っていて城下町を散策するのが大変でした。犬山城にも上りました。階段が急でとても怖かったです。4回のセミナーを通して、大変なことや楽しいこといろいろありました。司会をするのは、すごく大変でしたが、みんなと協力して4回のセミナーを企画してきました。私にとってセミナーをやることは、すごく大変なことだったけど、参加してくれる人たちが楽しかったと思えるセミナーができたと思います。学園で授業をしてる時とは、違いつくや大学の人たちと話ができるのでとても楽しいです。みんなと楽しい企画が作れてよかったです。実際に実行委員長をやってみて、みんなに意見を聞いたり、企画を考えたりするのは大変だったけど、とてもいい経験になりました。

【資料:生涯学習セミナーの参加者の内訳】



<福祉の現場から>

本学習プログラムでは、本人の希望があれば年齢にこだわらず幅広く学習ニーズのある障害者を対象とし、取り組みを通して移行期の青年への効果や課題を抽出して明らかにすることも目指してきた。そのため法人内の障害者福祉事業所「自立支援センターるっく」にも参加を促した。(参加した事業所は、就労移行支援事業所、就労継続B型事業所、生活介護事業所、自立(生活)訓練事業所、共同生活援助(グループホーム)などで年齢は10代から70代までの幅があった)

ここでは、福祉の現場職員の視点で生涯学習セミナーについて振り返ってもらおう。

「ひろがる学び 生涯学習セミナー」

「高校の勉強は仕事の練習ばかりで嫌いだ。生涯学習セミナーはとても楽しい勉強だった」「これから学び続けたいです。次は、トロの歴史を学びたいです」生涯学習セミナー実行委員を経験した利用者の言葉です。私が、現在、所属する就労移行支援事業所には、学校卒業後間もない利用者も多くいます。その中から、今年度の生涯学習セミナー実行委員に2名の利用者が参加しました。職員に声をかけられての始まりでしたが、セミナー実行委員会を重ねるごとに向かう足取りも軽く楽しげにでかけるようになりました。生涯学習セミナーが“なぜ必要なのか？”と言う問いに確固たる答えはありませんが、最初は、与えられた役割を受け取る側だった彼女たちが次第に意欲的になり、楽しい勉強になった事、次に学びたい事を発言したことは、委員になった当初は、思いもしなかったこと、普段は自分の思いを表現し伝えることが苦手な彼女たちの嬉しい変化でした。

以前の私は“就労移行支援だから仕事の場で必要な作業能力が身につけばいいのでは？”と考えていましたが、実際に座学・体験に参加しいつもとちがう空間で、利用者・職員共に時間を共有・体験できる楽しさを知りました。質問や感想を発表する場での発言には“なるほど”と普段気づかない一面を教えられることもありました。セミナーのテーマに最初から興味があるわけではなくても、学ぶうちに知りたくなる、学んでみると良かったと思う。そんな経験の積み重ねが働くことを目指している利用者の働きつづけるための力に繋がるとても有意義なものだと、今は考えています。

秋元 真理子(自立支援センター るっく職員)

私は現在グループホームの職員として働いていますが、利用者との日々の関わりの中で彼らの世界の狭さを感じることがあります。毎日、日中活動へ通い同じ場所で同じ人と会い、毎日と同じように過ごしています。変化を嫌う人もいますが休日は暇を持って余している人が多いです。テレビを見たり、おやつを食べたり、特に出かけることもありません。

何かをやりたいと思ってもお金がなかったり、一人では外に出る自信がなかったり、なかなか行動には移せません。そもそも自分が何をやりたいのか分からない人もいます。圧倒的に経験が足りないのです。

生涯学習セミナーは、そんな利用者にとって良い意味で刺激のある取り組みでした。「学習」という言葉に抵抗がある人も、「みんなで防災の話を聞こう」「みんなでカラーリングをやろう」など「みんなでやる」ということには前向きに参加してくれます。「学びたい」という理由で参加するのではなく、「友だ

ちに会えるから」「お世話になった先生に会えるから」「みんなが行くなら行く」と、人との出会いを求めて参加するという人が多いように感じました。

2019年度の生涯学習セミナーの特徴として、事業所を超えてグループで取り組んだことがとても良かったと思います。普段関わりのない人たちとの交流は不安もありますが、とても良い学習です。私が印象に残っているのは、普段は甘えたがりな利用者が、グループワークで年下の人がわからないことを教えていた場面です。一緒に犬山を散策した生徒さんが、高齢の利用者に合わせて歩いてくれた姿も印象的でした。普段とは違う集団の中で、みなさんの成長を見ることができました。

セミナーの内容に興味を持って真剣に参加していた利用者もありますが、「面白い話が聞けて楽しかった」「みんなと美味しいものを食べてよかった」と純粋に楽しかったという感想が多く聞かれました。私は、セミナーの内容をしっかり理解して知識として吸収することが「学習」だと思っていましたが、そうでない場合でも、みなさんが「経験した」ということが何より学習になっているのだと感じました。

経験は知識とは違い、誰もが積み重ねることができるものです。生涯学習セミナーは様々な経験の場として機能があったと感じています。

齋藤智弘(自立支援センターるっく職員)

<参加した青年たちの姿からみえること>

生涯学習セミナーに参加した障害青年たちの姿からは「学ぶことが楽しい」「もっと学びたい」「(学校卒業後も)学ぶ機会ができてよかった」「大学生や同世代の仲間とのコミュニケーションが楽しい」など主体的な学習意欲が伝わって来る。

そのことから本セミナーを実施したことで、本学習プログラムが目指す「障害青年は①学校卒業後も「学ぶことが自分を豊かにする」ことを感じ取り、学習の主体者として積極的に生きていく力の獲得につながる、②学習要求を持つ障害青年の組織化により共に学ぶ仲間ができる、③多様な人(同世代、異年齢、健常者、外国人等)とのつながり、学習活動を通して共生社会の活動に参加する、等の学習成果」へつなげることができたと実行委員会では考えている。

誰もが学べるそんな機会を今後も保障していく上で「生涯学習セミナー」を継続して開催していくことが必要である。

<共に学んだ学生・院生の立場から>

「当事者による当事者のための生涯学習セミナーとは何か」

昨年度からこの事業には携わらせてもらっており、今年で2年目となった。昨年度は公開講座のチューターという役割だったが、今年度は生涯学習セミナーの実行委員として実行委員会に出席する他、セミナーにも第1回防災講座、第2回カローリング大会、第4回犬山城歴史散策にいち参加者として参加した。その中で印象に残っている点について3点あげたい。

1点目は、当事者の皆さんがセミナーをととても楽しみにされていた点である。毎回80名近くの参加者が集まり、いつも大盛況であった。講座の内容も、その多くが当事者の方を対象としたアンケートをもとに企画されたものであり、「自分の学びたいことが学べてよかった」「来年も参加したい」という感想が出ていたことが印象的であった。また、今回のセミナーでは、狙いとして普段とは違うメンバーで学ぶ機会を作るというのが掲げていたため、当事者の方もその保護者も教職員も大学生も混じって、年齢も所属もバラバラでグループが組まれていたが、「なかまがいると楽しかった」「みんなと一緒に楽しかった」という感想が出ており、講座の内容だけでなく仲間と共に学ぶ意義について改めて考えさせられた。

2点目は、実行委員である当事者の皆さんがとてもイキイキとしていた姿である。第1回目の実行委員会で役割分担を行ったが、すぐに決まると記憶している。セミナーに向けた準備や当日の運営でも、それぞれが自分の役割を果たしつつ、実行委員自身が一番楽しみにしていたように感じている。「当事者による当事者のための生涯学習セミナー」を目指していたことから、実行委員の中に当事者の方を含めることはとても大事な要素だと感じた。

3点目は2点目に関連するが、実行委員会の中でどこまで当事者の方に配慮をするべきなのかという議論を行ったことである。すべてのセミナーが終わった後に行われた実行委員会でのことである。今年度最後の生涯学習セミナー企画であった犬山城歴史散策は、グループに分かれて街歩きをするということで、グループ分けをどのようにするのか、配慮が必要な人に対して職員をどのように配置するのか、といった点でこれまでの企画とは異なる難しさがあった。また、今回参加が叶わなかったものの、犬山市在住の当事者の方にも参加してもらおうということも考えていたため、セミナーで会うのが初対面となる場合、どこまで配慮をすべきなのかということが議論になった。その時に出了た「参加者(当事者)の方はお客さんではないのだから」というコメントが心に残っている。つまり、企画者がお膳立てをして参加者(当事者)の方に参加してもらおうような企画が本当に良い企画なのかという指摘である。

今回、実行委員として生涯学習セミナーの企画・運営に携わらせてもらう中で、「当事者による当事者のための生涯学習セミナー」とは何だろうということについて考え続けていたが、わかってきたことは、企画者も参加者も共に作っていくセミナーである必要があるのだろうということである。それは障がいの有無に関わらない。学校教育とは異なる学びがあるのが生涯学習であり、自分たちで学びを創っていくというのが重要ではないか、そんなことを考えた。自分自身が実行委員としてどこまでそれを果たせただろうか…という反省もあるが、今回は企画から携わらせてもらったことで、私自身この生涯学習セミナーをととても楽しむことができた。これが何よりの証拠ではないかと思う。

(名古屋大学大学院生 竹井 沙織)

<まとめにかえて> 見えてきた「学校から社会への移行期」の学び

今回の生涯学習セミナーは、文化、スポーツ、座学の間を、見晴台学園で学ぶ学生と「るっく」や「あるて」の社員が、一緒に企画・運営するものでした。4回のプログラムには多くの参加があり、楽しかった、また参加したい、という感想が寄せられました。その理由はどこにあるのでしょうか。感じたことを3つあげたいと思います。

1つに、毎日通っている見晴台学園や「るっく」や「あるて」での生活が充実しているということがあると思います。日常生活が充実することで、気持ちが安定して、ほかに楽しいことはないかと意欲が高まります。また、普段一緒に過ごしている仲間や職員への信頼があるからこそ、いつもと違った場所でも行ってみたいと思えたのではないかと思います。以前から気持ちが安定して意欲の高かった仲間もいるかもしれませんが、見晴台学園やるっくに来てそう変わった仲間もいるかもしれませんが、充実した生活を仲間や職員と過ごすことが生涯学習の基盤になると考えられます。

2つに、楽しい学びが用意されたことが大きかったと思います。そこではまず体を使って体験することが大切だということがあります。カローリングは毎年人気があり、今年もとても盛り上がりました。犬山・歴史散策は雪が舞う中でもみんなが楽しむことができました。「学校から社会への移行期」の学びの方法として体験を通した学習は重要です。その一方で、このセミナーでは座学にも取り組み、防災とパラリンピックについて学びました。これについても楽しかったという感想が寄せられています。それは社会で関心を集めているテーマについて、第一線の方のお話を聞けたからではないでしょうか。それに加えて、きちんと時間を確保して話し合い、そこから質問を練り上げ、勇気を出して質問すれば講師から反応が返ってくるということも大切なことではないかと思います。学校教育の中では難しかった自由で集団的な学習ということが、生涯学習のポイントであることが見えてきたのではないかと思います。

3つに、仲間がいるということです。実行委員はそれぞれに役割をもって、みんなのために取り組みました。緊張する場面もあったでしょうし、難しいこともあったと思うのですが、勇気をもって取り組み、必要があれば職員と相談しながら役割を遂行した経験は大きな自信につながると考えられます。また、仲間がいるということは違った意見と遭遇するという一方で、自分の希望が通らないこともあったと考えられます。また、今回は自分の希望がかなったので、次は誰かが出した希望にそって楽しみたいという感想もありました。自分の意見を出しながらも他者の意見と前向きに折り合いをつけていく。そういう力が仲間の中で育つことが重要だと考えられます。

「学校から社会への移行期」というと関心が就労に集中しがちですが、学ぶことの楽しさを知り、人とかかわりを深め、人生を豊かにするきっかけをつくることもこの時期の大切な課題です。今回の生涯学習セミナーはそれがどうすればできるのかを考える有力な道筋を示してくれたと思っています。

(連携協議会委員 名古屋大学 辻 浩)

II. 大学連携オープンカレッジ

前年度委託事業で取り組んだ大学連携オープンカレッジからは次の三点の課題が挙げられた。
①開催時期の課題(1月以降は学生が試験期間後で集まりにくい、年度途中で日程が決まるため利用している福祉事業所等との兼ね合いで障害青年の参加に結びつかなかった)、②興味や関心を引き出す学習内容の提起、③参加しやすい環境整備。

これらを踏まえて今年度の企画にあたり特に①開催時期と日程と②興味や関心を引き出す学習内容についての改善を図ることに重点をおいた。6月の段階で杉山連携協議委員より推薦のあった東海学院大学教授で紙飛行機作家として著名なアンドリュー・デュアー氏に講師を依頼、12月までに計4回のオープンカレッジを開催する日程を取り決めた。また、前年度オープンカレッジの企画として書家の金澤翔子氏と母親の泰子氏を招いての揮毫・講演会の運営そのものを障害青年と大学生ボランティアが担い、役割と責任を分担して主体的に学び合う姿勢が認められたことから、青年たちが能動的に学ぶ機会を検討した。当初、デュアー氏が東海第一幼稚園園長を兼務していることから園児に向けた紙飛行機教室を実施し、障害青年が大学生ボランティアとともに子どもたちに教える立場として関わることを考えたが、このプランは園の場所が名古屋からは遠方で青年たちの参加が困難なこともあり見送られた。代案として杉山委員より名古屋市の児童館との連携という提案を受け、田中コーディネーターがオープンカレッジの主たる会場の愛知みずほ短期大学に近い瑞穂児童館との交渉にあたり、同児童館館長の関根氏の企画趣旨への賛同と全面的協力を得ることができた。

こうして今年度の大学オープンカレッジの骨子は固まった。四回実施するうちの三回目に児童館の子どもたちを対象とした『キッズワークショップ・紙ひこうきを飛ばそう!!』の開催を位置付け、その前の二回の内容はそれぞれ①自己紹介、講師紹介、紙飛行機づくりの実技、今年度オープンカレッジの目的と日程について、②キッズワークショップ開催に向けたグループ分け、子どもたちに教える紙飛行機づくりの実技、役割分担について、ワークショップ後の四回目は当日の様子を振り返り感想や次年度への希望を出し合うことが主な内容となった。

以下、障害青年と大学生等が顔合わせと今後の進め方を検討するために集まった実行委員会(9/8)とオープンカレッジ(第一回 9/15、第二回 10/6、第三回 11/16、第四回 12/15)の活動について報告する。

【資料:大学連携オープンカレッジチラシおもて】

令和元年度文部科学省委託事業 「障害者の多様な学習活動を支援するための実践研究」
 主催：NPO法人見晴台学園大学校
 事業名：生涯の学びとしての、障害青年の「学校から社会への移行期」における継続的な学習の役割と課題

大学連携 オープンカレッジ 2019

参加費無料

	開講日/時間	会場
第1回	9/15(日) / 13:00~16:00	愛知みずほ短大
第2回	10/6(日) / 13:00~16:00	愛知みずほ短大
第3回	11/16(土) / 13:00~16:00 この回は瑞穂児童館とのタイアップ企画詳しくは裏面をご覧ください	瑞穂児童館
第4回	12/15(日) / 13:00~16:00	愛知みずほ短大

各大学・学部
 名古屋大学 工学部
 名古屋大学 文学部
 愛知県立大学 文学部
 愛知みずほ短大 教育学部
 瑞穂児童館
 瑞穂児童館 児童課

高等部卒業後の障害青年と連携大学の学生が
 学び合うオープンカレッジを開講します

テーマは『紙ひこうき』で共に学び、共に生きる!

事前申し込みのうえ、ご参加ください

お申し込み
 お問い合わせは
 NPO法人見晴台学園大学校
 052-355-6752

●電車・市バス・地下鉄

名鉄線	名鉄「名古屋駅」から	約4分
東山線	東山「瑞穂」から	特急約40分 急行約50分
東山線	東山「瑞穂」から	特急約20分 急行約30分
東山線	東山「瑞穂」から	急行・普通約30分 約4分

名鉄「瑞穂」駅下車
 徒歩約10分

●市バス「牛車」
 下車
 徒歩約10分

●地下鉄東山線
 「瑞穂」駅下車
 徒歩約10分

●地下鉄東山線
 「瑞穂」駅下車
 徒歩約10分

●愛知みずほ短大周辺

【資料:大学連携オープンカレッジチラシうら】

令和元年度文部科学省委託事業「障害者の多様な学習活動を支援するための実践研究」
主催:NPO法人学習障害児・者の教育と自立の保障をすすめる会

瑞穂児童館&大学連携オープンカレッジ2019

キッズワークショップ 紙ひこうきを 飛ばそう!!

参加費 無料 定員 20名

アンドリュウ・デュアー先生
考案のふしぎな紙ひこうきを
大学連携オープンカレッジの
学生さんと一緒に作って
飛ばす楽しい企画です



「大学連携オープンカレッジ」
とのタイアップ企画

このワークショップは高校や高等部卒業後の
障害のある青年と連携する大学の学生が
「大学連携オープンカレッジ」に集まり、
子どもたちに楽しく参加してもらえようと
企画や準備を進めておこないます

講師:アンドリュウ
・デュアー先生

1961年カナダ・トロント生まれ
東海学院大学教授(図書館学)
東海第一幼稚園園長
国内外で紙ヒコーキ作家として
も知られ、著作40冊以上

お申込み
瑞穂児童館
Tel.052-852-2229

2019年11月16日(土)
13:30~15:30
会場:瑞穂児童館

- ・保護者の方も付き添う事ができます。
- ・当日は動きやすい服装でご来場ください。

大学連携オープンカレッジ実行委員会

- 日時:2019年9月8日(日)13:00-15:00
- 会場:愛知県立大学サテライトキャンパス
- 参加者:障害青年2名、大学生ボランティア4名、法人職員2名、連携大学教員2名、コーディネーター(うち、連携協議会委員3名)
- 内容

9月15日(日)の大学連携オープンカレッジに先立ち、コーディネーターから連携大学の教員を通じて大学生に、法人職員を通して障害青年に第一回のオープンカレッジをスタートさせるための準備会として実行委員会の呼びかけがあり、13名が集まった。

最初にコーディネーターから本事業の学習プログラム開発の三つの柱の一つにこの大学連携オープンカレッジが位置付けられている説明があり、ついで参加者が自己紹介をおこなった。障害青年は二人とも今年度初めての参加、大学生ボランティアは二年目が二人、初参加が二人と前年度の経験を引き継ぎながら新しい取組みに挑む中核になる顔ぶれが揃った。

続いて連携協議会委員より、チラシをもとに今年度の大学連携オープンカレッジの企画とアンドリュー・デュアー講師との打ち合わせの報告があった。障害青年の関心は、外国人の先生への興味、紙飛行機という身近なようであまり実体験のない題材、そして児童館の子どもたちに教えるという未知なる体験への期待に向けられていた。大学生ボランティアはそこに加えてそれぞれに特別支援教員を目指すなど障害青年との交流や支援を通して自分も学びたいという意欲が感じられた。

第一回のオープンカレッジを円滑にスタートさせるために、当日の司会や受付について話し合ったところ、障害青年の一人が「カメラをやります」と自ら記録係を引き受けるなど集まった一人ひとりが積極的に役割を分担し、一週間後のオープンカレッジに期待を膨らませた。



【資料: 第一回大学連携オープンカレッジ 9/15 の通信おもて】

大学連携オープンカレッジ 2019 通信 vol.1

2019.9.15 愛知みずほ短期大学

第一回大学連携オープンカレッジの様子をお知らせします。

当日は障がい青年 14 名、学生ボランティア 6 名(愛知県立大学、東海学院大学、星城大学)、教員・連携協議会委員など 7 名、講師 1 名の 28 名が参加しました。

9/8 の実行委委員会で決まった司会の進行で一人ずつ自己紹介をしました。続いて講師のアンドリュー・デュアール先生の紹介です。先生の優しい語り口と出演された BS テレ東「ワタシが日本に住む理由」のビデオを観て、どうしてカナダから日本に来られたのか、子ども時代の紙ひこうきとの出会い、そして日本文学や文化を愛しご家族と岐阜で生活されているデュアール先生の人柄に触れることができました。

後半は折り紙の紙ひこうきを教わり教室で飛ばしてみました。浮力をつかんで二段階に上昇する紙ひこうきに思わず歓声上がり、みな夢中になって紙ひこうきを飛ばしていました。(藪)



オープンカレッジの取り組みについて説明を聞きました。コーディネーターと司会の二人。



日本語もとても堪能な講師のデュアール先生。



「ワタシが日本に住む理由」のビデオを観ました。



折り紙を折るのが苦手な人も周りで助け合ったり、デュアール先生に教えてもらって紙ひこうきを作りました。



左右非対称な紙ひこうき。でも、よく飛ぶのでびっくり!?



夢中になって紙ひこうきを飛ばす様子を写真に撮るのは難しいということを実感しました。

【資料:第一回大学連携オープンカレッジ9/15の通信うら】

当日の感想より

- ・紙飛行機は、あまり作った事がないので、今日紙飛行機が作れて良かったです。今度は、作り方がもっと簡単な紙飛行機が作りたいです。
- ・今日の講義の映像の中で様々な種類の折り紙があり、とても驚きました。また、自分で作った紙飛行機を高く遠くまで飛ばすことができとても楽しかったです。子どもたちに教えられる様に作り方をしっかり覚えようと思います。
- ・広島に紙ひこうきを展示してるところがあるんだということを知れたり、知らない紙ひこうきのおりかたを知れてよかったです。
- ・今日は、紙ひこうきを作って飛ばしたときに「こうするといいかも？」など言いあって、楽しくできたから良かった。次回は、グループごとに分かれてするので、他大学の学生とたくさんコミュニケーションがとれるようにしたいと思った。そして、次回も自分から楽しんでもできるようにしたい。
- ・今日は、非常に充実した時間を過ごさせていただきました。紙飛行機という身近な遊びだけで、こんなにも世界は広くなるのかと驚かされました。また、生涯に渡って学び続けるという意味の深さも今日一日を通して少し理解できたと思います。
- ・紙飛行機をあまり作ったことがなかったのですが、楽しかったです。
- ・アンドリュー・デュアーさんの話が聞けてよかったです。私も、紙飛行機をたくさん作ってみたいと思いました。
- ・プラモデルや工作はよくやりますが、紙飛行機はたまにしか作りませんでした。でもデュアーさんのお話と番組を見た後紙飛行機の魅力や仕組みを知れてよかったです。
- ・デュアー先生のビデオを見て、紙飛行機は幼稚園や小学校低学年くらいぶりだったけどすごく楽しかったし、色々な織り方があって面白かった。飛ばしている時にみんな夢中になって小さい子の遊びだと思ってたけど全然そんなことないんだなと思いました。
- ・とても久しぶりに紙飛行機を折って楽しかった。「紙飛行機」というものを通して、初めて出会った人とも仲良くなれたと思う。子どもの頃とはまた違った見方でとても勉強になった。

次回、第二回オープンカレッジは

10月6日(日)13:00より愛知みずほ短期大学 503 教室です。

この日は5つのグループに分かれて切り紙の紙ひこうき作りを体験します。

道具(ハサミ、のり)は用意しますが、自分のハサミが使いやすい方は持参してください。

そして、第三回(11/16)で瑞穂児童館の子どもたちに教えるワークショップのことを話し合い準備します。

各大学の皆さんの参加をお待ちしています！

『大学連携オープンカレッジ』は

令和元年度文部科学省委託事業「障害者の多様な学習活動を支援するための実践研究」のプログラムの一つです。

主催：NPO 法人学習障害児・者の教育と自立の保障をすすめる会

【資料: 第二回大学連携オープンカレッジ 10/6 の通信おもて】

大学連携オープンカレッジ 2019 通信 vol.2

2019.10.6 愛知みずほ短期大学

第二回大学連携オープンカレッジの様子をお知らせします。

当日は障がい青年 14 名、学生ボランティア 8 名(愛知県立大学、東海学院大学、星城大学)、教員・連携協議会委員など 8 名、講師 1 名の 28 名が参加しました。

この日は 11/16(土)の瑞穂児童館での第三回=子どもたちが参加する紙ひこうきワークショップに向けて当日作る予定の切り紙の紙ひこうきに挑戦しました。最初に前回の振り返りとワークショップを行う会場の写真を見てイメージを共有しました。次に講師のデュアー先生から「紙ひこうきはなぜ飛ぶのか」という航空力学の講義があり、翼があるから、軽いからというだけではない仕組みが働いていることを学びました。続いて前回決めた 5 グループに分かれて切り紙の紙ひこうき制作です。「てんとう虫」と呼んでいるこの紙ひこうきは丸い翼と先端に重しとなる 4 枚のパーツを重ねて貼るところがポイントです。翼に絵や文字をデザインしてパーツをハサミで切り取り順番に糊で貼り合わせていきます。作る前は実感がありませんでしたが丸い線の通りに切れなくても大丈夫。みんなの「てんとう虫」はきれいに空中に舞いました。

最後にワークショップの集合時間など当日の進め方と受付や会場係、グループリーダーを決めて感想アンケートを記入しました。

みなさん、次回は参加した子どもたちに紙ひこうきを飛ばすのが楽しい! と思ってもらえるワークショップにしましょう。(藪)



封筒に 5 円硬貨を重しとして入れて重心を測って飛ばすと封筒がくるくる回らず滑らかに滑降したのはビックリ!?



厚紙に印刷したキットに絵を描き組み立てていきます。「作ったら飛ばしたい!」その欲求が楽しさの源かもしれません。



【資料:第二回大学連携オープンカレッジ 10/6 の通信うら】

当日の感想より

- ・かみひこうきでてんとう虫を作りました。飛ばしたら楽しく飛ばせたのですごと思いました。
- ・今日のオープンカレッジでは、パーツの組み合わせによってかなり遠くまで紙飛行機が飛ぶということが非常に興味深かった。また、投げ方一つでも飛距離が変わるということも分かり、子どもに教える時は投げ方にも一つ助言を言ってあげるなどをしたいと思います。
- ・第2回目の紙ひこうきはふだん作らない、ひこうき「てんとう虫」を切って、はって、くっつけて、作る、作業は久々に作ってメチャメチャこうふんして楽しかったです。次回は子どもたちと一緒に紙ひこうきを作って、楽しみだと思えます。
- ・今回、紙ヒコーキを作り、とばしてきました。たのしい時間を作れてよかったです。また、子どもたちといっしょに作ったり、とんだりします。11/16(土)もきたいしています。
- ・前回参加出来なかったので、自己紹介もできていない状態でグループになじめるか不安でしたが、一緒に紙飛行機を作ることで、グループのみなさんとなかよくなれて嬉しかったです。次回も小学生とたくさんお話しながら楽しく紙飛行機を作りたいと思いました。
- ・ふうとうと5円玉で紙飛行機の原理の実験はすごくおどろきました。次回のオープンカレッジは、子どもたちに作り方をおしえることががんばります。
- ・おもしろいかみひこうきが作れてよかったです。子どもたちに、教えられるようがんばります。
- ・むずかしかった。
- ・今日は、2回目のオープンカレッジでした。かみひこうきをつくるのがむずかしかったです。
- ・てんとう虫の作成がむずかしかったのですが、同じグループの学生たちと一緒に聞き話しながら作ることができてよかったです。
- ・デュア先生に教えてもらいながら、紙飛行機を楽しく作ることができた。また、他大学の学生と作り方を教えあうことができたことが良かった。次回は、子どもたちに教える立場となるため、分かりやすく教えられるようにしたい。
- ・ひこうきのとばしかたを試行錯誤しながらみんなで活動する場面が一番楽しかったので、児童館での活動もこの場面を大切にしたい。



みんなが作った「てんとう虫」紙ひこうき

次回、第三回オープンカレッジは11月16日(土)12:30に瑞穂児童館集合です。準備をして13:30に子どもたちが来ます。大まかな進め方は別紙をご覧ください。館長さんとの話ではもしかしたら幼児さんが親と一緒に参加するかもとのことでした。一回、二回に参加できなかった方も5つのグループに分かれて一緒に紙ひこうきづくりや学生間・子どもたちとの交流を楽しみましょう。各大学の皆さんの参加をお待ちしています！

【大学連携オープンカレッジ】は

令和元年度文部科学省委託事業「障害者の多様な学習活動を支援するための実践研究」のプログラムの一つです。

主催：NPO法人学習障害児・者の

教育と自立の保障をすすめる会



【資料: 第三回大学連携オープンカレッジ 11/16 の通信おもて1】

大学連携オープンカレッジ 2019 通信 vol.3

2019.11.16 みずほ児童館

第三回大学連携オープンカレッジの様子をお知らせします。

当日は障がい青年 11 名、学生ボランティア 8 名(愛知県立大学、東海学院大学、星城大学)、教員・連携協議会委員など 7 名、講師 1 名のオープンカレッジメンバーと、瑞穂児童館でのワークショップに申し込んで頂いた子どもたち 23 名(幼児 14、小学生 9)と保護者 11 名、そして児童館スタッフが加わり、総勢 65 名の参加者が集まりました。

早めに児童館に集まった障がい青年と学生ボラが協力して会場設営、児童館の全面的協力を得て軽スポーツができる広さのホールが会場です。事前に準備して持ち寄った横断幕を貼り、赤・青・水色・紫・黄の 5 グループごとにビニールシートでワークスペースを設けました。受付の準備が整ったところで子どもたちが次々とやってきました。受付係の青年たちが子どもたちに色紙のくじを引かせてグループに振り分けていきます。みるみるうちにワークスペースが埋まり、いよいよワークショップの始まりです。

デュアー先生は幼稚園の園長でもいらっしゃるので子どもたちへの対応も慣れているのだろうとお任せしましたが、飛行機が飛ば理由を前回のオープンカレッジと同様子どもたちが相手でも理論的に説明して見せていたことに改めて感銘を受けました。子どもたちだからわからないだろう…ではなく、子どもたちをワークショップの大切な参加者として受けとめ、子どもたちにも紙飛行機にも真摯な態度で臨まれている姿勢は見習いたいと思いました。

グループごとに「てんとう虫」の型紙と設計図が配られ制作開始です。学生によって子どもたちへの接し方は様々でした。積極的に笑顔で話しかけ、作り方を上手に教えている人もいれば、関わりたいのだけれど子どもたちがどんどん作業を進めるのできつかけがつかめず困っている人もいました。保護者の方もたくさん来られましたが、このワークショップが障がい青年と学生の企画であることにご理解頂き、作り方を彼らに尋ねながら制作していた保護者さんもいらっしゃいました。作り終えた子が一人二人と飛行機を飛ばし始めました。どうしても力任せに腕を振るのでなかなか思うように飛ばない子も、学生たちが「おいしい!」とか「その調子」とか「すごい!!飛んだね」などと声をかけ、一緒にやってくれるので次第にコツを掴んで紙飛行機飛ばしに夢中になっていきます。一度作った飛行機にさらに絵を描きこんで楽しんでいる子や、バスケットゴールに向けて自分でルールを作って飛行機を飛ばして遊ぶ子など、発想力豊かな子どもの姿に触発されてワークショップの時間はあっという間に過ぎていきます。最後は、グループごとに感想を発表しましたが、グループリーダーを担った青年が代表で話すチームがあれば、子どもたちが自分で発表してくれたチームもあり、短い時間の交流でしたがそれぞれの特色が感じられて良かったと思います。

土曜日の児童館はこのワークショップ以外にもたくさんの子どもの親や親戚が活動していました。地域の社会教育の拠点と私たち障害者の生涯学習の場づくりの取り組みが連携した今回のオープンカレッジには障がいのある青年と学生の関わりだけでは得ることのできない学びがありました。たとえばある青年は、「キッズワークショップで子どもと一緒に紙ひこうきを作りました。僕は苦戦でした。」と正直な感想を残しました。実際彼は自分では上手に紙飛行機を作り飛ばせるのですが、この日は小さい子どもたちに教えたけれど、どうやって教えたらいのかかわからず、他の学生がうまく子どもに接している様子を目の前にして戸惑っていました。しかし、「僕は苦戦でした」と自分を受けとめ自己評価できたのは、子どもたちに紙飛行機づくりを教えたという動機が彼の中にちゃんとあったからで、1 回目、2 回目のオープンカレッジを経て臨んだ今回への意欲も感じられます。まともなる第 4 回のオープンカレッジでは「大苦戦」を悲観的、否定的に捉えるのではなく、君の中にこういう心の準備や気持ちの動きがあって、その日の自分をちゃんとわかっていたこと自体が素晴らしいことなのだ伝え、そこに学びがあるということを確認したいと思っています。

このように、下は 3 歳から上は 〇〇歳までのまさに老若男女が集い、障害も国籍も越えて紙ひこうきを通じて楽しさを共有し交流できたワークショップは、多様性を認め合い、共に学び共に生きるという今回の学習プログラム開発がめざしている一つの形を例示した実り多いものでした。お世話になった瑞穂児童館の皆さんにも深く感謝いたします。ありがとうございました。(敬)

【資料: 第三回大学連携オープンカレッジ 11/16 の通信おもて 2】

当日の感想より

※ワークショップに参加した子どもたちの感想は裏面に載せました。

- ・子どもたちと一緒に持って貼って飛ばして楽しかったです。子どもたちと仲良くなれてよかったです。
- ・飛行機を作るのは2度目だったがうまく飛ばすことができなかった。難しかったが子どもたちがとても楽しそうに作って飛ばしてくれたので嬉しかったです。
- ・飛行機を作る子どものなかに、ぼくのこだわって作った飛行機を作りたい子がいたのが驚きました。
- ・紙ひこうきを飛ばすのが難しかった。チームの子どもと仲良くできて良かった。前回作っていただけあって作り方に困ることはなかったが教えるのはむずかしかったです。
- ・みんなが楽しそうに紙ひこうきを作っていたので良かったです。また、上手に作っていたのもすごく良いなと思いました。私も楽しくできました。
- ・私が、子どもに紙飛行機の作り方を教える出番は、なかったけど、子どもたちが上手に紙飛行機を作っていたのが良かったです。
- ・紙ひこうき楽しかったです。子どもたちがじょうずに作ってくれたのでうれしかったです。
- ・私自身は今日は紙飛行機はつくらなかったが、みなさんとの交流などとても楽しむことができた。また、あまり飛ばす時間がなくなってしまったが、つくる過程でもとても楽しんでくれていたので良かったと思う。
- ・子どもたちが楽しくひこうづくりできてよかったです。
- ・初めは、子どもたちと打ちとけられるか心配でしたが、作り方を教えたり、手伝ってあげたりしているうちにとても仲良くなることができました。子どもたちが帰る時に私に笑顔でありがとうと言ってくれたことがとてもうれしかったです。
- ・今日は、途中からの参加だったけど子どもたちがみんな楽しそうにしていたし、感想にもたのしかったとか、またやりたい、紙飛行機を家でも作りたいと書いてくれていてうれしかった。帰りにもう1つ紙を配るってなったときにだいたいの子がもらって行ってくれてうれしかった。
- ・自分は今日のワークショップを終えて、子どもの発想力の未知数さとどんな人々とも協力して一つの物事を成し得ることで知ったより多様な人間関係の重要さに気づかされました。
- ・子どもにおしえるのがむずかしかったです。



「大学連携オープンカレッジ」は、
令和元年度文部科学省委託事業「障害者の多様な学習活動を支援するための実践研究」のプログラムの一つです。
主催：NPO 法人学習障害児・者の教育と自立の保障をすすめる会

第4回大学連携オープンカレッジ

●日時:2019年12月15日(日)13:00-16:00

●会場:愛知みずほ短大

●参加者:障害青年11名、大学生ボランティア5名、法人職員4名、連携大学教員1名、コーディネーター、講師(うち、連携協議会委員3名)

●内容

11月16日に開催した瑞穂児童館でのキッズワークショップの様子を写真で振り返ったあと、参加した障害青年と大学生ボランティアが順番に感想を発表、アンドリュー・デュアー氏からもキッズワークショップを含めた今回のオープンカレッジ全体への総評をいただいた。

後半はデュアー氏の最新作の一つでレオナルド・ダ・ヴィンチをモデルにした紙飛行機を組み立て、全員で飛ばして最後のオープンカレッジを終了した。

以下、当日の様子と参加者の感想を紹介する。



「参加した障害青年の感想」

- ・子ども達と初顔合わせだったのにかかわらず子ども達から喋りかけてくれて私的には凄く楽しかったし、とても嬉しかった。
- ・久しぶりの紙飛行機を作れて、楽しかったです。1人で作るよりも皆さんと一緒に楽しく作って貼って、切って、そして飛ばすことができ良かったと思いました。来年は、もしまたオープンカレッジがあれば、今度は体を動かす、スポーツもやってみたいです。
- ・さいしょは紙ひこうきときいてピンときませんでしたがつくってとばしてみたのしかったです。児童館でのワークショップでは子どもたちがたのしそうにしていますごく良かったです。
- ・こんかいのオープンカレッジで、デュアー先生に紙飛行機のたのしきや飛ぶものの原理を知ってとてもよかったです。ほんとうにデュアー先生にあえてよかったです。
- ・かみひこうきにも形が左右ほしいしょうでもとうひこうきや切ってはって作るかみひこうきなどかみひこうにもいろんな物があるのだなとおもしろかったです。
- ・オープンカレッジに行って楽しかった事は、紙ひこうきを作るとばす事が楽しかったです。
- ・紙飛行機を作っているいろいろなジャーズの名前もいっぱい書きました。僕は紙飛行機を投げて、中日笠原投手や大野雄大投手みたいにしたかったからです。
- ・ことしのオープンカレッジのテーマはかみひこうきでした。みんなといっしょにかみひこうきを作って、とばして楽しかったです。
- ・ふり返りは、ワークショップの写真も見て、とても感心しました。最後までたのしめたおかげです。いろんな紙ヒコーキを作って、あそんで、今までにもたのしくしましょうね。来年もまたヒコーキをとばしたいと思います。
- ・4回のオープンカレッジを通して1番大変だったのは、3回目のキッズワークショップでした。私は子どもと接するのが苦手で少しとまどいましたが、子どもたちが楽しそうに紙ひこうきを作っているのを見て、私もえがおになりました。

「大学生ボランティアの感想」

- ・今年度の内容は①身近な素材(紙ひこうき)のみならず、②ただ遊ぶだけではなく科学的な要素(物理学)もあり、「学び」としては質の高いものであった。また、地域への貢献や活動があったことはオープンカレッジのもつ意味を再確認させるものでした。一方で、参加している大学の学生数に大きくバラつきがあったのも事実なので、「大学が連携することの意味」や各大学の都合のすりあわせ(日程調整や場所)が必要ではないかと感じた。
- ・第2回目からの参加で緊張していましたが、紙飛行機作りを通じて、ほかの学校のみなさんと色々な話をしたり、交流ができて、普段の学校の授業だけでは出来ない経験をさせていただきとても自分にとっていい刺激を受けることができました。児童館では、人に教えることの難しさと同時に喜びを感じることができ、将来の目標に向かって頑張ろうと思えました。

- ・このオープンカレッジで紙飛行機を通して様々な大学の人やたくさん子どもたちとふれあえてよかったです。また、児童館のワークショップでは最初は緊張していた子どもたちも紙飛行機を作っていくうちに笑顔を見せてくれてとても嬉しかったです。
- ・最初集まったときに紙飛行機を作って飛ばしてみても、大学生なのに紙飛行機って思ったけど、すごく楽しかったし、ワークショップのときは途中からの参加だったけど子どもたちも大人もみんな楽しそうにっていて、このボランティアに参加して良かったと思いました。準備のときも、ワークショップの本番もすごく楽しかった。
- ・4回のオープンカレッジを終えて、自分は他者とのつながりの大切さについて少しでも知れたような気がしました。というのも、このオープンカレッジでは初対面で話す人々がほとんどであり、お互いにどんな人なのかわからなかったからです。しかし、実際に初対面の人と積極的にコミュニケーションをとっていくとお互いの好きな事、嫌いな事、得意な事、苦手な事などが合うこと合わないことがありながらも紙飛行機作成で困ったら助け合っていたことがありました。そして、個人個人が一つの目標に向かって協力し、最善をつくした結果、ワークショップの成功につながったのだと思いました。貴重な経験をさせていただきありがとうございました。

「連携協議会委員、教員の感想」

- ・つくる、描く、飛ばす、飛ぶ理由を知る、繰り返しチャレンジできる等、いろいろな人が楽しめる、いろいろな楽しみ方ができる飛行機作りでした。小さい子に丁寧に教える姿、お互い道具等を貸し借りする姿や教え合う姿等が自然に見られたことがよかった。
大切なことは・・・多様な学びー自身の学び 気付き
- ・楽しく参加できました。今年のオープンカレッジは、“教わること”と“教えること”の両方が体験できたとても良いとくみだったと思います。初めて出会った子ども達に教える時ドキドキしたり、むつかしかったりしたその経験も日頃にはできない事だったと思います。よし、次はこうしてみよう、こんどこそ・・・なんて思ったら来年につながりますね。オープンカレッジがスタートする9月初めは見晴台学園大学はいわき市のボランティア研修があり、第1回目の実行委員会に参加できず、何か乗り遅れた感じが残りました。何かいつも主催者ではなくビジターのような気分になってしまい受け身だったかなとの反省があります。来年は、スタートの時から学生たちが参加して、一緒に活動を作っていたらうれしいです。
- ・自分たちが学んだことを人に伝え、一緒に楽しむ、素敵な企画でした。ワークショップ当日は記録係として参加。みんなのキラキラショットをたくさん撮影できてこちらもワクワクしました。回数を重ねていくと段取りやポイントがわかり、もっと楽しくなると思います。

・紙ひこうきを作るのは小学生ぶりくらいでしたが1回目のオープンカレッジから子どもの頃は気付かなかった紙ひこうきの奥深さにハマっている自分がありました。同時にデュアー先生の1つのことを探求(究)し続け、好きでい続ける思いの強さに感銘を受けました。ワークショップでは、子どもたちの楽しむ姿と子どもたちに緊張しながら関わろうとするいつもとは違う生徒たちの姿を見ることができてよかった、とホッとしました。オープンカレッジで初めて出会った人ばかりでしたが、違う学校に通う人も大人も子どももみんな「紙ひこうき」という1つのものを通して楽しめたことが何よりの成果だと思います。多様な学びという点で様々な方法があると思いますが、今回のような物作りを通した学びは終わったあとに残るのでいいなと思いました。来年度も今回児童館の方たちに協力いただいたように、こういう取り組みを広く知ってもらうためにもどこかとタッグを組んでできたらいいなと思います。

大学連携オープンカレッジに参加して、大変勉強になりました。

当初、紙ヒコーキは本当にふさわしい内容なのか不安でしたが、むしろちょうどいい活動となりました。小さい子どもから大学教員まで、幅広い層の参加者は楽しく、しかもほぼ対等に参加できました。紙ヒコーキづくりは活動として、適度な難しがありながら、最後までやりたくなる面白さも持っていますので、どなたも楽しく参加できました。「難しい」という感想は多かったが、それは頑張った分、満足している証だったと思っています。

私が見るには、オープンカレッジには様々な目的がありました。児童館の親子と交流することが最終的な目標でしたが、それをすることによって大学生の皆さんが教える経験を得ます。教える前に教える内容を理解したり工夫を考えるたりする必要もあります。その内容を共同ワークショップで体験し、体験しながら協力するための関係づくりをしなければなりません。これらの学生の活動を指導するスタッフは協力体制を作って計画を立てなければなりません。それに私が皆さんが慣れていない活動をさせたので、本当に多面的な研修となりました。しかし、その全ての目的を達成できたと思います。参加した皆さんにとって、本当に有意義な研修だったのではないかと思います。

大学連携オープンカレッジ講師
東海学院大学教授、東海第一幼稚園園長
アンドリュー・デュアー

まとめ

大学連携オープンカレッジを終えて～よかったこと、これからの課題～

前年度に続き大学連携オープンカレッジを担当した立場から見えてきた大学連携オープンカレッジの学習プログラムとしての特徴を二点挙げておきたい。

一つは、連続した開催がもたらす学習効果である。テーマとして設定したキッズワークショップを三回目に挟む形で、一、二回目の実技や準備、四回目の振り返りが一つの目標である子どもたちに紙飛行機を教えることに自然に集約されていった流れは、障害青年が自ら見通しを持って参加することを後押ししていた。当然のことながら、初対面の講師、大学生ボランティアとの関係性も回を重ねるごとに親しみを増し、名前呼び合う姿も見受けられるようになった。特別支援学校等全日的な活動場面と違い、学校卒業後の学びは単発的、不定期なものにならざるを得ないが、障害青年が安心して活動に参加できる環境を整えるうえで、取組みに見通しが担保されることや他者との関係性が構築できることは欠かせない要素であり、連続した開催によるメリットは大きい。

二点目は、取組む内容や題材(教材)の設定である。ここは多角的に分析が可能だが今回のオープンカレッジに即して見ておきたい。題材の「紙飛行機」は障害青年にとっても遊んだ経験のある身近な存在だ。しかし、一般的に手先が不器用であったり遊び方を膨らませて楽しむことが得意ではないため、子ども時代に「紙飛行機」遊びを満喫した経験は乏しいと思われる。『知っているが、あまりやったことがない』というのが大半の障害青年の「紙飛行機」イメージであった。また、青年期にある彼らにとって「紙飛行機」を作って飛ばすという行為が学習の題材としてふさわしいものになるのか、ここには内容を工夫する必要があった。そのためにキッズワークショップを設定して学習の動機づくりを試みた。講師のデュアー氏から「紙飛行機」づくりを学び、それを子どもたちに教えるという立場の転換が少なからず彼らの学習意欲を高め、子どもたちに関わる責任という一点で障害青年と大学生ボランティアが対等な立場で共に学ぶ機会を作ることができた。コミュニケーションの部分でも、同世代の障害青年とボランティアの間では遠慮や気恥ずかしい気持ちから積極的に言葉を介して関われない様子も見られた反面、紙飛行機を飛ばし合う場面では言葉を越えて無邪気に交流できたこと、子どもに作り方を教える立場になってみて「どうやって説明したらわかりやすいのか」、「わかりやすく教えるのは難しい」など、自分のコミュニケーション力を客観的に捉えていた青年たちの姿が印象的であった。

加えて、講師のデュアー氏から「本物の飛行機を自分で作ることができる。それが紙飛行機の魅力である」という、航空力学も引用した大人の楽しみ方が示されたことも大きかった。参加した障害青年のなかにも紙飛行機が飛ぶ原理に興味を持った人もいれば、デュアー氏のプロフィールと相まって子どもの頃から夢を追いかけて実現させていく姿に感銘を受けた人もいたように、青年期の学びには物事の本質に触れるなど彼らの興味関心と響き合う内容が大切なことを改めて感じた。

次年度に向けての展望と課題だが、上記した大学連携オープンカレッジの特徴を引き続き活かしつつ、①大学生ボランティアの参加促進に向けた連携大学とNPO法人の関係提携の構築、②児童館等生涯学習機関を通じた地域との連携、などを事業終了後につなげて検討していくことも課題になると思われる。

(連携協議会委員 見晴台学園 藪一之)

Ⅲ. 視察研修

2019年度 視察研修先一覧

※()内は、法人研修として自費参加した職員

	視察先	所在地	視察日程(月日)		参加者
			7月	2日(火) -3日(水)	
1	株式会社 福祉事業型 「KINGOカレッジ」	新潟県新潟市	7月	2日(火) -3日(水)	奥谷・田中 (谷口・大竹)
2	医療法人 稲生会	北海道札幌市	8月	10日(土) -11日(日)	池田・田中
3	NPO法人 障がい児・者の学びを保障する会	東京都練馬区	8月	23日(金)	山本・田中 (山田)
4	国立大学法人 長崎大学医学部保健学科	長崎県長崎市	10月	19日(土) -20日(日)	牛丸・田中 (平子)
5	NPO法人 CCV	栃木県鹿沼市	11月	6日(水) -7日(木)	川上・田中 (井上)
6	社会福祉法人麦の芽福祉会 「ユーススコラ 鹿児島」	鹿児島県鹿児島市	12月	4日(水) -5日(木)	藪・田中 (斎藤・鬼頭)